

聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部理学療法科 編
理学療法リスク管理マニュアル

神津 玲（長崎大学医学部・歯学部附属病院リハビリテーション部）

リスク管理を特に必要とする急性期理学療法の対象者は多岐にわたっている。脳血管障害や整形外科系疾患をはじめ、近年では呼吸器・循環器疾患、侵襲の大きな術後状態、多臓器疾患などの重症患者においても超早期から介入する機会が増加している。このような対象者では、何よりも安全な介入が最優先されるため、「今どのような状態なのか、どのような治療がなされているのか、何が問題なのか」など、対象者の病態を適切に理解、把握することが要求される。しかしながら、急性期医療の現場の進歩はめざましく、必要とされる知識の量は増える一方であり、追いついていけない状況になりかねない。

このたび上梓された「理学療法リスク管理マニュアル」は、このような臨床家のニーズに見事に応えてくださった待望のマニュアルである。本書の気配りの効いた構成と内容はユニークかつ実践的であり、臨床現場での問題解決に役立つマニュアルであると断言できる。内容は脳血管障害、循環器疾患、糖尿病、呼吸器疾患、さらには加齢と転倒というタイムリーな章を加えた構成となっており、それぞれ「疾患概念」、「特異的リスクとその管理の実践」、「多臓器・他疾患との関連」という項目で統一されている。「多臓器・他疾患との関連」では高度で難しい内容もあるものの、必要な知識が網羅され、全体としては懇切丁寧で読みやすい。

今まで急性期理学療法の臨床実践のためには、疾

患概念と治療、臨床検査、画像診断、モニタリングなど幅広い領域にわたってさまざまな教科書を用意して勉強する必要があったが、本書の出現によって、その必要性はなくなったと言っても過言ではない。まず本書を熟読し、必要に応じて他の文献で調べるという学習方法で十分である。これ一冊（しかもポケットサイズ）で急性期の対象患者の病態理解とリスク管理が可能であるのだから、お得でうれしい限りである。

本書の明快さと親切さは、執筆陣が第一線で活躍中の気鋭の臨床家であること、加えて聖マリアンナ医大リハビリテーション部が長年にわたって急性期リハビリテーションの臨床、研究そして教育のフロントランナーとしての役割を担う中で培ってきたノウハウの蓄積によるものと思われる。本書の行間からはその志が確実に伝わってくる。そのあたりは本書の「序文」に記されているので、手に取られた方はぜひ最初に「序文」を一読していただきたい。

これだけ充実したマニュアルをまとめていただいた編者の熱意と努力に心から敬意と感謝を申し上げますとともに、1人でも多くの方々の手元に置いていただきたいと考え、本書をお勧めする。回避しうるリスクを減らし、安全で効果的な理学療法を実践するためには本書が必要不可欠だからである。

〔A5変型 頁340 4,410円（本体4,200円＋税5%）
2005 三輪書店刊〕